

演題名：本邦の外科修練におけるハラスメント問題：外科修練に関する全国アンケートサブグループ解析

[演者] 福本 将之:1, サシーム パウデル:2

[共同演者] 古来 貴寛:3, 石田 苑子:4, 増田 隆洋:5, 藤川 善子:6, 喜安 佳之:7, 齊藤 光江:8

1. 長崎大学大学院移植・消化器外科
2. 恵佑会札幌病院消化器外科
3. 札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科
4. 北播磨総合医療センター外科
5. 東京慈恵会医科大学外科学講座
6. 深見台中央医院
7. 京都大学消化管外科
8. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

【背景】 本邦の外科医数減少とハラスメントは大きく関与していると思われるが、実態は明らかではない。

【目的】 ハラスメントに注目した本邦の外科修練の問題点を抽出し、今後の改善策について検討する。

【方法】 令和 3-4 年度の外科専門医試験合格者全員を対象にオンラインアンケート調査を実施した。「指導医からハラスメントを受けたとありますか？」という問いから、受けたと思う群 (H 群) と受けたと思わない群 (C 群) に分けて比較した。統計学的解析は χ^2 検定を行い、 $p < 0.05$ を有意とした。

【結果】 ハラスメントに関する質問への回答率は 52.0% (733/1410) であり、H 群は 304 名 (41.5%)、C 群は 381 名 (52.0%)、答えたくないが 48 名 (6.5%) であった。性別、年齢層、配偶者 (パートナー) や子どもの有無、外科修練地域、大学医局への所属は両群間で有意差は無かった。指導医の指導力が低いと評価したのが、H 群 76 名 (25%)、C 群 37 名 (9.8%) ($p < 0.01$) であった。外科修練後の勤務地域について、戻る気はないと回答したのが H 群 87 名 (29%)、C 群 47 名 (12%) ($p < 0.01$) であった。外科修練プログラムの満足度について不満と回答したのが、H 群 84 名 (28%)、C 群 27 名 (7.1%) ($p < 0.01$) であった。外科修練を中断しようと考えたことがあるのは、H 群 145 名 (48%)、C 群 78 名 (20%) ($p < 0.01$) であった。自由記載には、ハラスメントを無くしてほしいという意見が多数あり 16.4% (22/134)、指導医の評価体制を確立すべきとの意見もあった。

【考察】 今回外科修練医の属性とハラスメント申告の相関関係は認められず、修練施設の指導医の資質との相関が示唆された。本調査研究はハラスメントを受けたと感じたか否かを問うものあり、実際ハラスメントがあったかどうかを確認することはできない。しかしながら、この限界を踏まえても、修練医と指導医の良好な関係構築で、ハラスメントを受

けたと感じることが無い環境整備が急務である。指導医と修練医の相互評価システム構築や、指導医講習会など、学会をあげて取り組むことが重要と考えられた。

【結語】 外科修練医がハラスメントを受けたと感じる環境の存在が明らかになることは指導体制へのフィードバックにつながる。外科修練医を確実に育成するために、各修練施設や学会が組織的にハラスメントの実態調査をすることは意義があるといえる。